属人区長の書簡 (2014年10月)

属人区長は、福者アルバい会に、福者では、福者ではいいでは、福者ではいいがした。 はがしていいではいいがはないがした。 はがしないがいがいがいいではいいでは、お助けるというにおいいでは、 がいるないないにはいいでは、 がるように勧めています。

2014/10/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

Ut in gratiárum semper actiónem maneámus! 聖ホセマリアが天国で永遠に捧げている感謝に一致しましょう。今、愛するドン・アルバロの列福式で目の当たりにしたオプス・デイの一致ゆえに感謝します。より深い感謝を主に捧げれば捧げるほど、いつも全てにおいて、神の聖なるみ旨により一致することができます。

使徒聖パウロの「私の喜びはあなた 方すべての喜びでもある」[1] 喜び う言葉が口に上ります。この喜び は、聖霊によってもたらされるも で、イエス・キリストが十二使徒 に、そして彼らを通して全てのなけ に与えられた約束の成就にほかなり、 ません。「わたしが父の掟を守り、 その愛にとどまっているように、あ なたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛に留まっていることになる。これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなた方の内にあり、あなた方の喜びが満たされるためである。」[2]

このよい忠実なしもべの生涯一私た ちがしばしば考察したこと一は、そ の人とその使命に関する神のご計画 に忠実であったと要約することがで きます。ですから、私たちと多くの 人たちが、ドン・アルバロの変わら ぬ平和と喜びを観ることができたの です。教会が、このしもべの至福直 観の栄光を認め、キリストに従う模 節として推薦することによって、神 との一致を目指して進むべき道を私 たち―すべての人に呼び掛けておら れます一に思い起こさせます。この ようにして、主は、この世でも既に 幸せを味わせてくださいます。

1992年、愛するドン・アルバロが聖 ホセマリアの列福をどれほど喜ばれ たかを鮮明に覚えています。その 時、こう書き送られました。「聖霊 の実(ガラテヤ5.22参照)であるその 喜びは心の奥深く響き渡り、まるで ≪喜びの大海│に沈められているよ うでした。これこそ、神が私たちの 内に現存される明らかな印です。し [3] 今、同じことを皆が実感してい ます。あのときのドン・アルバロに 倣って、主に、世界中で列福式を見 た何千万の人たちに、そしてまた、 あらゆるところで感謝ミサに与る人 たちに、この喜びをお与えください とお願いします。創立者の聖性を鮮 明にしたように、今回もまた、皆が この日々の思い出を心に刻み込み、 ここ数日の恩恵の雨が皆を「熱心に 祈り、度々秘跡に与り、家庭あるい は仕事の環境をよくするため励み、 一言で言えば、神にもっと近づく| [4]よう後押しして下さいますよう にと、主にお願いしましょう。

聖ホセマリアは執拗に「喜びはキリ スト教の善であり、戦えば手に入 る。喜びとは平和の結果であるから だ| [5]と強調していました。 それ ゆえ、私たちが今体験したことを、 各瞬間、神のより近くにいるために スポーツマン精神で戦うことにおい て、非常に具体的な決心を立てるこ とに表わしましょう。仕事や休息に おいて、家族生活や社会生活、日常 生活における大小様々な逸脱におい て…、父なる神を見上げ、聖ホセマ リアの教えを愛し、福者アルバロの 模範を活用する決心ができるようお 願いします。こうして私たちはいつ も落ち着いて喜んでいることができ ます。そして周りに、イエス・キリ ストと共に歩んでいる人のgáudium cum pace, 喜びと平和を撒き散らす ことができます。

9月27日のミサ聖祭で、教皇様から 私宛に届いた列福の祝詞が読まれま した。教皇フランシスコはドン・ア ルバロが度々繰り返していた射祷るしていまりがとうごされていますではいますではいいませいではいいがしているの盛たとれたのの盛たとれたのの盛にはいるといったものではいいが提謝を見いであるとして私が提謝をしているといるより深い回心を促します。

日間のマドリードでの式典、また ローマや数多くの国々で捧げられる 感謝ミサ、また聖エウジェニオ大聖 堂に安置された新福者のご遺体の前 で祈る数知れない人々の姿には、聖 ホセマリアがオプス・デイ創立当初 から大切にした「Deo omnis glória! Regnáre Christum vólumus!Omnes cum Petro ad Iesum per Maríam! (全ての栄光は神に! キリストが支配 されるように!ペトロと共にマリア を通ってイエスへ!) | と要約される オプス・デイの精神が鮮明に映し出 されています。全ての栄光を神に捧 げる望みを新たにし、日々、キリス トが支配する社会にするため毅然と して戦い、教皇様にしっかりと一致 し、母なる聖マリアに全てを委ねて イエスにたどり着くよう励みましょ う。

この決心が実行できるよう天の恩恵 を心から望みましょう。一聖ホセマ リアも言っていたように一「愛と

は、行いであって、甘い言葉のこと ではない| [7] からです。度々、私 たちの聖性への熱意は、神の慈しみ によってかもし出された善意がある にも関わらず、弱さゆえに立ち消え になってしまいます。そんなときに は、ドン・アルバロが私たちに繰り 返しておられたことに助けを求めま す。何よりも毎日の終わりにする糾 明において、また、ゆるしの秘跡に 与る度に、神のゆるしに馳せ寄り、 「おゆるしください、もっとお助け 下さいしとお願いするのです。こう すると、敗北もまた勝利に変わりま す。そして神の恩恵は、新たな意気 込みで霊的戦いを再開するよう私た ちを奮い立たせます。

列福式に関する教皇様のメッセージの言葉を幾つか考察することにしましょう。「ありがとうございます! おゆるしください! もっとお助け下さい! これには神を中心に生きている人の張りつめた心が表れていま

す。もっとも偉大な神の愛に捕らえ られ、その愛だけを頼りに生きてい る人のものであり、自分の弱さや限 界を体験しても、主の御憐れみを確 信し、全ての兄弟姉妹にもそれを体 験させたいと望んでいる人のもので す。| [8] 教皇様はさらにお続けに なります。 | 福者アルバロは、非常 に明確なメッセージを私たちに送 り、主に気づくようにと言っていま す。主は私たちの兄弟であり、友だ ちでもあり、決して裏切ることはな く、いつも傍らにいてくださいま す。流れに逆らうこと、また福音を 述べ伝えることで苦しむことを恐れ ないように私たちを励ましてくださ います。さらに、単純な日常生活の 中に聖性に至る確かな道があること を教えてくれます。| [9]

10月1日の午前中、列福式関係の ローマでの行事に参加している人た ち皆が、聖ペトロ広場での教皇様と の謁見に与りました。そこで、再 度、皆と共に感謝の意を表明し、教皇様とそのご意向のためのお祈とをより熱心にするよう努めること後にするようの手紙の最後にで、私宛の手紙のでおられたこと頼んでおられたことで、ではして、そしてはいる人たちも、にはいる人たさい。同時に皆さんに使徒的祝福を送ります。」[10]

世界の平和のためにも、具体的には 信仰ゆえに迫害を受けている人が多 いところのため、ドン・アルバロの 仲介を頼りにしましょう。また、10 月5日に開幕する特別司教会議の什 事のためにも祈りましょう。教会が 伝統的に聖なるロザリオというマリ ア信心に当てている今月、聖母によ り頼むことが深まりますように。教 会は伝統的に10月をこのマリア信心 に当てています。ロザリオを祈るこ とによってより真剣に聖母の執り成 しを頼むことができますように。そ れは、シノドスで結婚と家庭に関す る教会の教えを説明する教父方を聖 霊が照らしてくださるようお願いす るためです。特に重要なことは、あ らゆるところの市民社会を、神一人 間に対する愛深い摂理において一が 示した道に立ち戻らせて下さるよう お願いすることです。

他にも私たちの念祷の参考文献がありますが、その中で、1980年のシノ

ドスの実りとして発表された教皇聖 ヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告 『家庭』を思い起こさせます。キリ スト信者の結婚は新約における秘跡 であり、典礼活動です。そして結婚 は、主がこの生活に招かれた人に とっての聖性の手段であり、道で す。教皇様はこれが秘跡であること を強調され「授けられた恵みを生活 の中で生きていくことと責任が結婚 の秘跡を通して夫婦に与えられるの と同様に、生活を『霊的な犠牲』へ と変えていく働きと倫理的な義務も この同じ秘跡を通して与えられる | [11]と述べておられます。そし て、それは、ただ、回心と和解の秘 跡に熱心に与り、ご聖体の秘跡を頂 くことによって可能なことなので す、と教皇様は言い添えておられま した[12]。

聖ヨハネ・パウロ二世は締めくくり として、家族一夫婦、両親と子ども たち一の祈りの重要性を説いてい

らっしゃいます。家庭の祈りは「洗 礼と結婚の秘跡によって授けられる 交わりの実りであり目的であります (…)。家庭の祈りは『家庭生活その もの』に向けられています。家庭生 活は様々な状況のもとでの神からの 招きであり、またその招きに対する 神の子のこたえとして生きているの です。喜びと悲しみ、希望と失望、 出産と誕生祝い(…)などなど、これ らのすべてが家庭の歴史への神の愛 に満ちた介入なのです。このような 出来事は家庭の感謝と願いの時、ま た信頼をもって天におられる私たち の御父のみ手に家庭を委ねる時の訪 れとしてとらえられるべきです。| [13]

聖ヨハネ・パウロ二世が指摘された これらのことは、今の時世にもよく 当てはまることであり、これからの 数週間、皆の念祷のテーマになり得 ることだと思います。教皇様に固く 一致するよう、皆で、このことを親 戚や友人・知人に伝え、今度のシノドスの仕事を助けるようにしましょう。

今月の他の祝日一オプス・デイを導く神の摂理の何という素晴らしさ!一には触れませんが、それらについてはあなた方が考察してください。そうすることで、聖ホセマリアと福者アルバロ、そして既に聖三位一体を仰ぎ見る幸せを享受している多でしょう。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2014年10月1日

- [1] 2コリント2,3。
- [2] ヨハネ 15,10-11。
- [3] 福者アルバロ、1992年12月1日 手紙 (家族の手紙」III,226番)。
- [4]同上。
- [5] 聖ホセマリア、「鍛」105番。
- [6] 1テモテ1,17。
- [7] 聖ホセマリア、「道」933番参照。
- [8] 教皇フランシスコ、2014年6月 26日一聖ホセマリアの祝日一アルバロ・デル・ポルティーヨの列福に当たってオプス・デイの属人区長に送られた手紙。
- [9]同上。
- [10]同上。

[11] 聖ヨハネ・パウロ二世、1981 年11月22日使徒的勧告『家庭』56 番。

[12] 同上 57-58番参照。

[13] 同上 59番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-10yue/ (2025/12/16)